



彫刻作品は、「人間讃歌」を主テーマとし、「人体」をモチーフとしています。

1 **ダンサー "Dancer"**
ヴェナンツォ・クロチェッティ Venanzo Crocetti




胸の前で腕を組み、静かにたたずむ若い踊り子。うっすらと微笑を浮かべた口もと、横を向いて何かを見つめる優しい眼差し、細く伸びた足。この作品には、叙情がみずみずしく漂っている。ヴェナンツォ・クロチェッティは、現代イタリアを代表する具象彫刻の大家であり、「踊り子」シリーズは、彼が長年にわたって制作し続けるテーマでもある。

4 **ヘクトルとアンドロマケ "Ettore e Andromaca"**
ジヨルジオ・デ・キリコ Giorgio de Chirico




ジヨルジオ・デ・キリコは、形而上絵画の創始者で、後のシュルレアリスム運動にも大きな影響を与えた。彼の作品を貫くのは、卵型の頭、紡錘形の脚、螺旋になった腕をもった人体である。この作品も、そのような彼のスタイルが表れた作品であり、主題であるギリシャ神話も、キリジャに生れ育った彼が得意とした題材である。

7 **イヴ "Eve"**
オーギュスト・ロダン Auguste Rodin




オーギュスト・ロダンは、「考える人」「カレーの市民」「ハルザック」「地獄の門」などの彫刻で知られる近代彫刻の父である。この作品は、彼の最も充実した創作活動時期のもので、その身をよじるポーズといい、量感ある肉付けといい、いかにも彼らしい骨太で存在感のある力作である。

10 **レイ "Rei"**
佐藤忠良 Churyo Sato




佐藤忠良は、現代女性の身体の線やプロポーションの美しさを自然なポーズの中に漂わせた作品で知られ、わが国具象彫刻界の代表的な作家である。この作品も、「モデルの素朴で健康な姿態にひかれ、この身体にことさらに演技的ポーズをさせずに彫刻してみたかった」と彼自身が語るように、人間の自然な身体のみずみずしく表現している。

13 **二つに分断された人体
"Working Model for Two Piece Figure Cut"**
ヘンリー・ムーア Henry Moore




イギリスが誇る巨匠ヘンリー・ムーアは、20世紀を代表する彫刻家の1人である。彼の作品を抽象と呼ぶか具象と見るかはさておき、彼が執拗にこだわり続けた主題が、「横たわる人体」を始めとする具体的なものであったのは確かである。この作品も、一連の人体像の1つであり、単純化された凸面と凹面の構成によって格調高いハーモニーを奏でている。

2 **ボンジョーの娘 "Girl in Beaujolais"**
富永直樹 Naoki Tominaga




ワインで有名なボンジョー地方の若い女性を、頭にブドウを載せたさっそうとした姿で表現している。この作品は、華やかで親しみやすい作風で知られた富永直樹の特色がよく表れた晩年の小品である。

5 **啓示 "Revelation"**
日高正法 Seiho Hidaka




この作品は、天から落ちてくる「神の声」と、それを受けとめる人間を表現しており、作品では、直線と曲線、鋭角と穏やかなカーブ、天を指す手と地に向かう紡錘形の物体、密と粗など、背反する要素の組合せによって、人間を超える不可視な存在を暗喩し、「神の啓示」という宗教的なテーマを見事に具現している。

8 **踊り子 "Ballerina"**
フェルナンド・ボテロ Fernando Botero




モナ・リザも、アダムとイヴも、精悍な騎士も、フェルナンド・ボテロが描くと、太っちゃうのまんまるに変身してしまう。戦後の具象画家の中でも彼ほど際立ったスタイルをもつ美術家は珍しい。この作品は、他の彫刻家の裸婦像よりも肉付きがよく、ユーモラスで温かい。まさに彼の絵画の延長線上の造形である。

11 **アコーディオン弾き "L'accordiste"**
オシップ・ザツキン Ossip Zadkine



オシップ・ザツキンは、ロシア出身で主にフランスで活躍したキュビズムの彫刻家であり、アフリカなどの土着美術に影響を受けた。この作品は、1924年に制作された同名の彫刻を1962年にリメイクしたものであり、自己の造形を生み出そうとして模索していた時期の前作に対し、穏やかで物静かな雰囲気を漂わせている。


14 **布 "The Cloth"**
佐藤忠良 Churyo Sato



さりげない仕草でスッと立つ裸婦。左手に持った布が絶妙なアクセントになっている。この作品は、佐藤忠良の比較的最近のものであるが、彼の円熟したスタイルがよく表れた秀作である。動きも肉付けも極端に抑制された作品には、静かで確かな存在感と豊かな詩情が漂い、見る者にさわやかな印象を与える。


(御堂筋西側設置作品)

3 **水浴者 "Bagnanta"**
マルチェロ・マスケリーニ Marcello Mascherini




すらりと伸びた脚、布の線の動きによって暗示される両腕、はちきれそうな胸、愛くるしい顔。水浴を終え、水から上がったばかりの少女の一瞬のすがすがしい姿態が見事にとらえられている。作品の骨格が基礎的な立体で構成されているにも係らず、具象的な印象を与えるのは、マルチェロ・マスケリーニのロマンティストとしての資質ゆえであろう。

6 **大空に "Paean to The Nature"**
桑原巨守 Hiromori Kuwahara




流れるような体の動きが美しく、見る者の視線は、自然に空へと向けられる。高く上げた少女の手には、今にも飛び立ちそうな鳩がいて、その手の先に希望が見えるようである。

9 **女のトルソ "Torse de Femme"**
オシップ・ザツキン Ossip Zadkine



力強く簡潔な線とボリューム感。この「女のトルソ」は、平面の集まりとして再構築されたキュビズムの特徴を示しつつも、厳格なフォルムから解放された自由な表現がみられる。抽象と人間の内面表現を融合させたザツキンの特色がよく現れた、彼の最盛期の作品である。

12 **髪をとく娘 "Young girl combing her hair"**
バルタサル・ロボ Baltasar Lobo



太い縄のような豊かな髪、豊満な肉体が目をはきく大胆な作品であり、原始彫刻とキュビズムが融合して発展したものである。空を見上げてゆったりと髪をとく姿は、穏やかで温かな印象を受け、バルタサル・ロボの理想である女性の豊満で優美な部分が象徴化されている。

(お問い合わせ先)
大阪市計画調整局開発調整部開発誘導課(都市景観)
Tel: (06) 6208-7885
<http://www.city.osaka.lg.jp/keikakuchosei/page/0000050399.html>

